

支部自慢コーナー

③ 鹿島町

毎号の表紙は、各支部の自慢の風景・祭り・ながめ等を載せご紹介します。

みちのくの

真野のかやはら

遠けども

面影にして

見ゆというものを

この歌に詠まれた「みちのくの真野」こそが鹿島町であります。

真野地方は早くから中央の文化攻勢に帰服したので、広く知れ渡ったかや原の景観美は都人の憧れをそそったのであろう。ことにこの地方は、古代の大民族大伴氏とは何らかの形でゆかりを持ったとも考えられ、神護景雲三年、大伴行方連（オオトモナメカラムラジ）の姓を賜ったりしている。

現在、阿武隈山地の山あいには源を発している真野川を経て、五〇メートル西の高台には、歌を刻んだ高さ二・五メートルの自然石の歌碑が建てられている。この歌碑に侘つと幻のかや原が波打ち、笠女郎の慕情が切ないまでに迫るのを覚える。

付近は桜平山公園、真野万葉植物園などがあり、町民の散策、憩いの場としても親しまれている。

“万葉の詩人が
詩った歌碑”

万葉集はわが国最古の和歌集であり、宝亀元年（七七〇年）に真野の草原の歌が載せられている。笠女郎（カサノイラツメ）という女性が、時の高官・大伴家持（オオトモノヤカモチ）に贈った歌三首のうちの一首



酒井会長

仙台国税局長表彰

受賞!!

このほど、当法人会の酒井利治会長が仙台国税局長表彰を受賞した。授賞式は去る十月三十一日、ホテル仙台プラザで行われ、仙台国税局管内では二十二名が表彰された。当会においては、昭和五十二年度に早川涌吉氏、五十四年度に古小高三夫氏、五十五年度に高野巖氏、平成二年度に坂本良二氏、五年度の松永時雄氏に続き、六人目の受賞となった。酒井会長自身

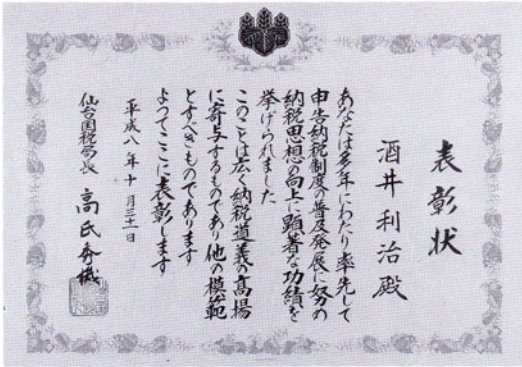
はもちろん、当会にとっても大変名誉なことである。

功績の概要としては以下のとおりです。

八支部で構成されていた相双法人連合会の社団法人化に当たって、会員の加入勧奨及び基金の募集活動に貢献され、昭和五十一年には社団化と同時に理事に就任。

昭和六十二年には県内法人会では最初の青年部会の設立に尽力、次代を担う経営者としての資質の向上を図り、県内各法人会に青年部会を設立する機運の醸成と指導的役割を果たした。

平成二年、同会の副会長に就任



表彰状
酒井利治殿

あなたは多年にわたり率先して
申す納税制度普及発展に努め
納税思想の向上に顕著な功績を
挙げられました。
このことは高く納税道義の高揚
に寄与するものであり他の模範
となるものであります。
よつこに表彰します
平成八年十月三日
仙台商工会 高氏 啓



上：表彰状
下：表彰状を受ける酒井会長

すると同時に相馬支部長を兼任、各種事業及び研修会を通じ会活動の充実と活性化を推進した。

平成七年、卓越した指導力を買われて同会の会長に就任し、(株)福島県法人連合会副会長に就任した。

また、社団化二十周年を契機として、女性部会の設立を実現し、

第十四回法人会全国大会

「しずおか大会」に参加

第十四回法人会全国大会「しずおか大会」は、去る十月二十四日、静岡県浜松市のアクトシティ浜松において総勢二、三〇〇名の参加のもと盛大に開催され、当会では富岡の坂本副会長が代表出席された。

(副)全法連川口副会長の開会の辞の後、主催者として服部禮次郎会長が挨拶。来賓では国税庁日高壯平長官、石川嘉延静岡県知事、栗原勝浜松市長の三名から祝辞があり、共に日本一の富士山、お茶、蜜柑、わさび、楽器など様々な名所・物産等によって比較的裕福な県民であることを誇示していた。

第二部においては、記念講演として慶應義塾大学島田晴雄教授を

女性の立場から法人会の活動に参画する道を講じ、自主申告納税制度の発展に寄与するなど、税務行政の円滑化と納税道義の高揚に尽くされた功績等によりこの度の受賞となった。

誠にありがとうございます。

招き、二十一世紀への企業戦略―経済改革と経営革新―について講演があり、米国、東南アジア、ヨーロッパ諸国に対し、企業はどのようにあるべきか等グローバルな内容であった。

第三部では懇親会となり、比較的少ない福島県勢であったが、共に親睦を深め有意義な大会であった。



「税を知る週間」

青年・女性部会

座談会開催

青年部会長 只野 裕一

税を知る週間の事業の一環として、恒例の税務署幹部職員の方を囲んでの三者合同座談会が十一月十三日、相馬駅前のレストランで行われた。

昨年までは青年部の単独開催であったが、今年は総会、懇親会も合同で行い、共同事業を行うことに決めた。今回は第一段である。

午前午後切れ目なく日程がある忙しい中を出席して頂いた奥山署長のご挨拶の後、渋佐女性部会長を座長にして座談会に入った。今回は、出席会員に前もって税務署側にお聞きしたい事柄をアンケートでいただいたところ、二点寄せ

られた。

一点目は、四月に改正される消費税であった。早川第一統括官から説明があり、特に建設業の九月までの契約物件について念入りに説明があった。即ち、契約は三月で四月以降も有効であるが、四月を過ぎてからの商取引は全て五％となる。その点で、残工事が四月以降どの位になるかしっかり試算しておかないと、二％の食い込みになってしまう。

もう一点は、思い切った法人税の軽減を要望するであった。統括官より、税務署は決まったことを実行する任務がある所で、制度を審議する役目は残念ながらないと答えであったが、税を知る週間の広く意見を聞くという趣旨からは貴重なことであり、会議の上で上申するとの約束をしてくれた。

この後、和やかな中で懇談を進めた。またこの日は、昼までに優良申告法人の表敬状贈呈が行われ、出席者全員が同席した。全員がぜひ仲間入りをしたいものである。優良法人会の会員と共に昼食をとり、税を知る週間の目的とする適正申告、早期納付の広報に努める思いを胸に解散した。

女性部会研修会

十月十六日、法人会女性部会は、昨年発足以来初めて東北の東ブロック女性部会研修会に出席しました。出席者は渋佐会長（原町）、椎谷副会長（相馬）、猪狩（新地）、三輪（富岡）の四名でした。初めての研修会で心配でしたが、事務局の太田さんから詳細な予定連絡を頂き無事会場へ。東北一を誇るホテル瑞鳳では、仙台北女性部会の皆様のお心づくしの数々がきちんと整っておりました。

東ブロック女性部会阿部会長の開会の辞、大らかで全てを包み込むような素晴らしいお人柄に和やかな空気が流れ、楽しく研修する雰囲気ができました。

始めは作家神渉良平氏の講演「一隅を照らす人生」。人生これからという四十代で病気に倒れ、予後歩行訓練から始まる難病との戦い。遂に克服するまでの心の遍歴、そして再び人生に立ち向かう力強い行動力に深く感銘を受けました。『さわやかに、しなやかに、私たちから起こそう法人会ルネッサンスの風』が表題の研修会では、



講演会で受けた感動をそのままに持ち越して二分科会に分かれ、「社会貢献活動と女性部会の役割」の第一分科会に出席しました。パネラー四名は、それぞれに法人会女性部会の経験豊かな方々。チャリティーバザーで益金を得て福祉事業に寄付をしたり、街頭での税を知る週間の宣伝活動、例会をもって親睦を深め、税法の勉強会など。女性部会は経営者の集まりであり、自分で時間を作る立場にある方々なので、出席率は大変よいとのことです。

夜に盆踊りがあり、当館の社長夫人が従業員と共に踊られる真摯で上品な姿に、万雷の拍手を贈りました。来年は、もっと大勢の参加をお願いします。



青年部会

「白河大会」報告

青年部会長 只野 裕一

青年部会のコミュニケーションの場である県会員大会が、白河の主管で十月十八日に開催された。開催地は、棚倉町ご自慢の「ルネッサンス棚倉」であった。

当初、この施設にはホールがなかったが、倉美館（くらびかん）と命名された素晴らしい建築物が出来上がった。早稲田大学の設計グループの作品で、入口に向かうアプローチから期待を膨らませる。階段を広くとっており、ホール側には玉石を敷いた上に水を張る工夫がなされ、心を和ませてくれる。ホールの中の特筆すべき点は、床が木で張られていることである。足に優しく、目にも柔らかく、大変良いものであり、流石に粋を凝らした、棚倉町にとどまらず福島県の誇りの施設である。

式典が厳粛な中にも整然と運営され、小野利廣会長の主催者挨拶に始まり、来賓祝辞、そして宣言文があり、私の担当であった。これは非公式ではありますが、次年

度大会開催地に内定している相双地区に対する配慮なのであります。

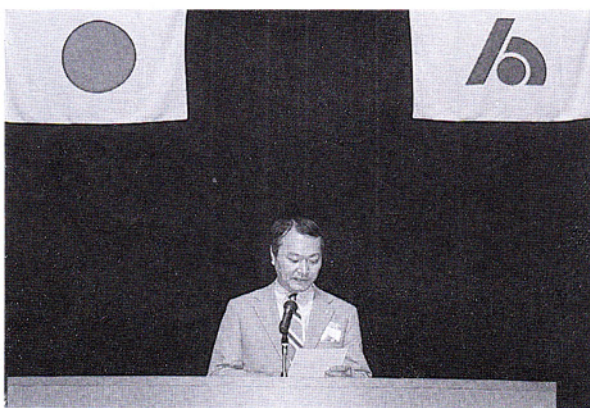
記念講演は、山形県鶴岡出身で上智大学教授の渡部昇一氏であった。とつとつとした話し方で最初のうちは興味を引かなかったが、進むにつれ内容の良さに引き込まれていった。前情報で、講演内容は「日本頑張れ」であると仕入れていたが、正に話を聞いたあと勇気づけられた。友好国と思っているアメリカ合衆国が、実は日本を一番警戒しており、日本に力をつけさせないために画策をし、他国との仲違いを作画し、最終目標として中国進出を狙っていたのであります。

第二次世界大戦での日本の戦力は過小評価されてきていたが、実はアメリカと肩を並べる二大戦争国力を保持していたのです。戦後、アメリカが日本の復興を恐れて重工業を解体しようとしたが、朝鮮戦争が勃発し、日本の力を借りざるを得なくなり、アメリカの思惑は外れた。

今、日本は不景気を嘆いているが、世界の中では以前としてトップの水準を保っている。半導体を

作る機械、セラミック包装は日本でしか出来ず、日本の輸出の八〇％は製作機械・部品であり、これがないと世界が麻痺してしまう。銀行の資金量も一七位を占めている。日本人として自信を持って、こんな内容で、期待していた以上の素晴らしい講演であった。

その後、クアハウスでの懇親会に席を移したが、式典・講演会の感想、そして今参加している懇親会の様子を語る相双法人会のメンバーの目はキラリと輝き、来年会に向けてのスタートが切られていた。



厚生委員会だより

大型保障制度の具体的な給付金のお支払い事例と致しましては、次のような例があります。

①五十歳の男性

(一億円コースにご加入)

事務所二階で作業中、誤って階段から足を踏み外して階下へ落ち、足の骨を複雑骨折し六十日間入院、退院後二十五日間通院されました。入院、通院保険金として三二七万円が支払われました。

②四十二歳の男性

(五千万円コースにご加入)

社内ソフトボール大会の試合中ボールを捕り損ね、突き指をして四日間通院されました。通院保険金として四万四千円支払われました。

以上のように事故による通院補償等、他の保険ではカバーできない部分まで保障する幅広い内容となっており、経営者（役員）の方々の労災保障の代用としてご活用頂くことができます。これからの会員の方々お役に立って行けることと確信しております。

「法人会全国 青年の集い」に

参加して 半谷嘉彦

第一回大会の仙台より数えて、今回は区切りの良い第十回大会。場所は香川県高松市。仙台大会当時と比べると、会場の規模も人数もはるかに上回り、今回は過去最大の一、八〇〇人が全国より参加し、「サンメッセ香川」において盛大に挙行された。

我が相双法人会青年部は総勢八名が参加しました。十一月八日、肌寒い仙台空港を飛び立ち高松空港に降り立つと、そこは夏!!東北と四国。その違いを文字通り肌で感じた次第です。

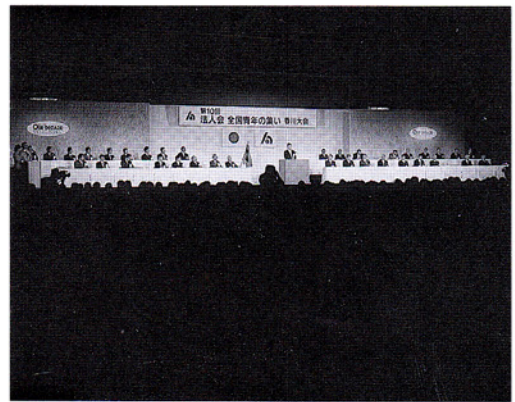
大会内容は、式典から講演会、部会長サミット、各委員会に分かれての会議、とかなりのハードスケジュールでありました。その中で一番熱い討論となったのは、法人会の基本的指針である社会的貢献活動をどのように実践するかでした。それぞれがいろいろな意見を参考に、これからの活動に生かしていこうという気概が感じられ有意義な会議でした。



このように一通りのスケジュールを終え、残り少ない時間を高松観光に当て散策しました。

ちなみに、高松といえば何といっても讃岐うどん、下は一〇〇円のセルフスタンドから上は何千円の高級店という具合に、街中うどん屋だらけであり、地元の人達は一日一回うどんを食べないと物足りないそうです。

また、高松には栗林公園という名庭園があります。地元の人にいわせると、日本三大庭園よりここそがNo.1であると自負している位です。その雄大さ。見渡すかぎりの紅葉をながめていると、いかにも日本人としての「佗び」「さ



び」といったものが感じられる所でした。

しかし、繁華街に戻り夕暮れのネオンの下にたたずむと、先ほどの「佗び」も「さび」もどこかに吹っ飛んでしまい、あとはいわずもがなであり、ここには到底書けないようなこともありました。

このように楽しいことも多々あり、是非一度は皆様にも参加していただきたいと思えます。ちなみに、来年の開催地は博多です。乞う御期待!!



税務署だより

法人税申告書等の

A4判化について

次の申告書用紙が平成九年四月決算以降申告分から、JIS規格のA4判化になります。

- 法人税申告書別表一(1)
- 消費税申告書

これまでもA4判でしたが、JIS規格よりひとまわり大きく、各方面から改定のご要望があり、今回ようやく改定のめどがつかまりました。これまでご不便をおかけしたことをお詫びいたします。

なお、この改定については、パソコン等の各ソフト会社にも連絡しており、申告時までには変更可能と思われまます。

詳細については、関係者へ問い合わせ願います。



大蔵省印刷局で 一億円を持ち上げる

双葉支部事務局 稲本美代子

去る九月四日、五日、一泊二日で双葉支部では東京方面へ、十九名の参加により研修旅行が行われた。相馬税務署にお世話になり、先ず大蔵省印刷局を見学。ここで

は、お札ができるまでの工程をビデオを通じて説明して頂き、一年間にお札が製造される量が金額にして十九兆三千九百億円、枚数にして三十六億三千枚と、なんと想像できない程の印刷に驚きました。

この工場では、お札製造の優れた技術・設備を活用し、国や地方公共団体などが発行する国債・公債・小切手・郵便切手・印紙・証券などの数多くの証券・郵券類を製造しているそうです。

恵比寿ガーデンプレイスにて

最後に、一億円を束ねた重さ二十kgのお札を持ち上げ、直接手で触れることができました。次に、水と緑の溢れる複合都市「恵比寿ガーデンプレイス」を見学致しました。「豊かな時間」と「豊かな空間」の中で、短時間ではありましたが、大変

興味深く過ぎて参りました。また夜は、東京ドームでのナイター観戦。優勝を左右する巨人と横浜戦。熱気ムンムン、生の迫力は想像以上で、強く印象に残る好ゲームでした。

二日目は警視庁博物館見学、明治以来の制服や拳銃のほか「警察執務文書」「辞令」など、警視庁の歴史と活動に目で触れることができました。最後の研修となった帝国劇場での観劇「ヨコハマ物語」は、逆境の波濤に立ち向かう明治女の華麗な一代記で、全員涙ながらに感動して参りました。今回の研修旅行は、普段見ることのできない法人会ならではの行程で研修することができ、また会員相互の交流と親睦を深めた有意義なすばらしい旅でした。



パソコン講習会開催

浪江支部

去る九月十一日、十二日の両日、浪江町商工会との共催による、パソコン講習会が開催されました。ワードソフト(WUDU)からインターネットまで、幅広い内容による講習でしたが、コース別受講者の募集により、それぞれのコースは定員をオーバーするほど盛況でした。

特に、インターネットの希望者が大幅に定員オーバーであり、せっかくの希望に添えなかったことが残念でした。

講師は、東芝機器からのインストラクターと、NTT福島の全面協力によるインターネットへの接続と業務指導を受けました。

WUDUは初心者対象としたワープロ講習を、販売管理・経数管理は会社の経理担当者を中心とした講習でした。

一度でなく、二回、三回を希望される方が多く、今後も時期をみて検討したいと思っております。

税務セミナー

― 飯館支部 ―

飯館支部では、去る九月二十六日午後一時三十分より、飯館村商工会館大ホールを会場として、支部研修事業として、法人税務セミナーを開催しました。

今回のセミナーは、平成八年度の税制改正において、消費税に係る限界控除制度及び簡易課税制度が改正されたことに加え、消費税率が現行の三%から五%へ引き上げ予定されていたため、経過措置等を踏まえて、適正な実務、知識を身につける必要があるものと考え、特に法人にあっては、適用開始期間等複雑な部分もあるため、少しでも早く消費税の改正点及びその実務を身につけなくてはならないとの観点から、テーマを「平成八年度税制改正における消費税の改正の概要と実務」として、あくまでも消費税に絞って実施しました。

当日は、相馬税務署法人課税第一部門より早川統括官並びに百足上席国税調査官に講師をお願いし、



はじめに早川統括官より税務行政全般、消費税改正の大枠についてお話を頂き、その後、百足調査官より、消費税の改正点、実務等について説明があり、出席者は消費税について学ぼうと真剣な表情で取り組んでおりました。

飯館支部としては、今回が支部単独の事業としては初めての研修事業でありましたが、今後、他支部の活動などを参考にさせて頂いて、より有意義で効果的な事業を推進していきたいと考えております。

活動報告

― 富岡支部 ―

① 勉強会の開催

昨年に引き続き、ワープロ講習会から一歩進んだパソコンの勉強会を七月十七日、十八日の二日間、昼夜を通して開催し、その内容は給与計算・インターネット

統合販売管理

初心者向パソコン

に分けて行い、大好評で終了致しました。参加者の皆さんご苦勞様でした

② 会員親睦ゴルフ大会の開催

昨年は大雨の中ハーフ競技でしたが、今年は快晴に恵まれ九月十九日、第五回をリベルヒルズにおいて二十七名で開催した。大会実行委員長猪狩広安氏より競技ルールの説明があり、アウト・インに分かれてスタートし、終了後成績発表と親睦パーティーで楽しみました。

優勝 関本 甫征

準優勝 大島 広美

第三位 猪狩 広安

未参加の会員の方、是非来年の



参加お待ちしております。

③ 税を知る週間行事参加

「税を知る週間」の行事として、相馬税務署と共催で小学校「税と生活」、中学校「納税義務」の課題で習字を募集。優秀作四冊をショッピングプラザ「トムトム」の店内に展示し、法人会活動をPRした。

展示作品は小学生、富岡一・二小十六点、中学生富岡一・二中、広野、川内の五校三十九点。

④ 視察研修事業

本年度は、只今研修委員会委員長渡辺守男氏、委員七名で検討中であり、計画決定次第、会員に通知して参加者募集を行います。多数参加申し込み下さい。

平成 8 年分の所得税の確定申告は 2 月 16 日(日)～ 3 月 17 日(月)ですが

所得税の還付申告は 1 月から受け付けています



① 給与の年収が二千万円を超える場合

② 給与を二か所からもらっている人で、給与所得や退職所得

**確定申告をしなければ
ならない場合**

サラリーマンの所得税は、毎月の給料やボーナスから源泉徴収され、年末調整で清算されます。この年末調整によって、大部分のサラリーマンは、その年の納税が完了しますので、改めて確定申告をする必要はありません。しかし、サラリーマンでも確定申告をしなければならぬ場合や、確定申告の必要のない人でも申告をすると源泉徴収された所得税が還付される場合があります。

還付を受ける方は源泉徴収票をもらったら早めに申告を、
確定申告をするサラリーマンの多くは所得税の還付を受けようとするのですが、その申告書の提出は 1 月からできます。確定申告期間(2 月 16 日～ 3 月 17 日)は、税務署の窓口が大変混雑しますので、所得税の還付を受ける方は、源泉徴収票をもらったの早めに申告してください。

③ 給与を二か所以上からもらっている場合

以外の所得金額(地代、家賃原稿料など)の合計額が二十万円を超える場合

**確定申告をすると
所得税が還付される場合**

- ① 病気がけがなどで多額の医療費を支払った場合
- ② 地震などの災害や盗難により住宅や家財に損害を受けた場合、また災害などに関連してやむを得ない支出をした場合
- ③ 住宅ローンなどを利用してマイホームを新築、購入、増築などした場合

▼ 還付申告書の提出はできるだけ郵送で……還付申告に必要な申告書用紙は、最寄りの税務署に用意してあります。申告書は源泉徴収票をもらったら早めに書いて、できるだけ郵送で提出してください。



弱冠

一月十五日の「成人の日」が国民の祝日に制定されたのは、昭和二十三年七月。

過去一年間に満二十歳になった人々を祝福する行事が、二十四年のこの日から行われてきました。

わが国では、成人を祝う風習は古くからあります。時代や地方によって違いがありますが、男子は十五歳ごろ、女子は十三歳ごろに労働や結婚の能力を備えた大人とみなされる成年式が行われました。公家の社会で成年の男子が髪型や服装を改め、頭に冠を加えた儀式は「元服」。武家では、冠の代わりに烏帽子を着けました。元服は古代中国に習った風習とされています。

「人が生まれて十年たてば幼とい、学問を始める。二十年すれば弱とい、冠を着ける」と「礼記」にあります。「弱冠」は男子二十歳の異稱で、転じて年の若さという言葉になりました。「若冠」は当て字。漢字のテストでは×と

なります。

エコシティ

エコロジカル・シティ(環境共生都市)の略で、環境との調和を念頭に進める都市整備のこと。わが国では、平成五年から建設省が環境共生都市整備事業を始めていますが、その基本理念は良好な自然環境や居住環境を都市づくりに生かし、自然と共生したアメニティ(ゆとりや快適さ)をもつエコシティを創造することにあります。

同事業では、①三大都市もしくは人口二十五万人以上七都市圏、または県庁所在地、②人口増などで都市環境の状況変化が著しい地域、③施策の実施で環境改善が期待される地域——をモデル都市に指定し、都市環境計画費用の一部補助などを行っています。そのモデル事業を実施している十七の都市で、エコシティ整備推進協議会が平成六年に結成されました。

平成八年三月現在、帯広市など十七市が同協議会のメンバーになっています。帯広市では「帯広の森整備事業」、大宮市では「大宮花いっぱい運動」、大阪市では「ノーマイカーデー」などが行われました。

— 新規会員紹介 —

(H8.12.10現在)

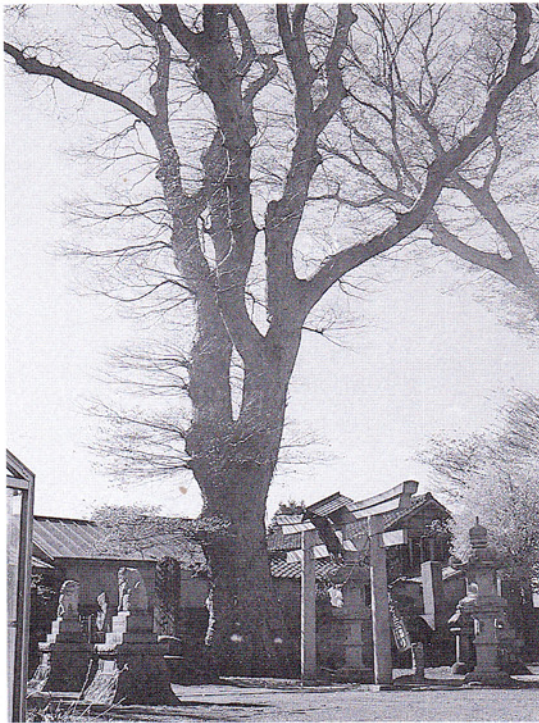
支部名	会 社 名	代 表 者	住 所
相 馬	(有) は や し や 旅 館	林 真 秀	相馬市岩の子字宝迫130-50
	(有) 大 川 電 機 工 業 所	大 川 一 郎	相馬市尾浜字追川1-27
	(有) ま つ か わ 釣 具 店	佐 藤 昭 夫	相馬市尾浜字細田130-1
	(有) 武 山 電 設	武 山 幸 三	相馬市小野字金谷台221-1
	(有) 木 村 エ ス テ ー ト プ ラ ン	木 村 利 美	相馬市黒木字上泉131
	(有) ア ム ー ル 企 画	青 柳 妙 子	相馬市中村1-15-12
	(株) サン・エンタープライズ	久米本 敏 夫	相馬市小泉字沖の内131
新 地	(株) 港 湾 サ ー ビ ス セ ン タ ー	庄 司 公 正	新地町駒ヶ嶺字今神129
	(有) 石 田 製 作 所	石 田 晴 男	新地町駒ヶ嶺字木戸内南21
	(有) 日 本 料 理 ほ う 葉	片 平 公 子	新地町谷地小屋字樋掛田6-1
	(有) 朝 日 シ ス テ ム サ ー ビ ス	加 藤 愨 夫	新地町谷地小屋字萩崎4
	(有) ア ー バ ン プ ラ ン ニ ン グ	加 藤 浩 二	新地町駒ヶ嶺字新町60-2
原 町	(有) 鈴 木 建 装	鈴 木 晴 彦	原町市国見町2-123-4
	(有) 印 刷 工 芸 社	鎌 田 知 恵 人	原町市三島町2-139-1
	(有) 川 崎 工 務 店	川 崎 博 祐	原町市上渋佐字原田66-5
	(有) 東 北 大 成	太 田 利 美	原町市上北高平字高松45-1
	(有) 岡 崎 造 花 店	岡 崎 五 郎	原町市本町1-125
	(有) リ ー デ ィ ン グ ラ イ ト	佐 藤 啓 一	原町市国見町2-123-4
	(有) 山 崎 工 務 店	山 崎 芳 正	原町市本町3-30
	(有) 小 林 組	小 林 兀	原町市橋本町2-95-5
	(有) 山 形 そ ば 本 陣	古 内 護	原町市本陣前2-112-2
	(有) 松 林 電 気 工 事	松 林 一 延	原町市北原字細谷地228-2
飯 館	(有) 大 内 設 計 測 量 事 務 所	大 内 哲	飯館村芦原字金沢54
	(有) 高 橋 石 材 工 業	高 橋 吉 光	飯館村飯樋字西原200
	(有) 遠 藤 工 務 店	遠 藤 栄 吉	飯館村飯樋字八和木70
	(有) 福 相 建 設	渡 邊 春 治	飯館村草野字大谷地10
	(有) 今 野 工 務 店	今 野 一 造	飯館村白石字町207-1
浪 江	(有) テ ィ ト ッ プ	田 中 穂 積	浪江町大字高瀬字堀内43-1
	(有) 東 邦 電 気 工 事	加 藤 忠 重	浪江町大字請戸字雷16-1
	(有) ラ イ ト ハ ウ ス	紺 野 清 一	浪江町大字権現堂字新町57
	(有) 小 丸 自 動 車 整 備 工 場	小 丸 静 夫	浪江町大字高瀬字根木内103
双 葉	大 昭 電 設 (株) 福 島 営 業 所	佐 藤 勝 男	双葉町大字長塚字谷沢町21-1
大 熊	(株) 斉 藤 工 務 店	斉 藤 眞	大熊町大字大川原字西平476
	(有) 沢 内 建 設	沢 内 文 雄	大熊町大字熊字旭台322
	田 中 工 業 (株)	佐 藤 久 夫	大熊町大字小入野字西大和久407
	(有) コ ウ セ イ	菅 原 晃	大熊町大字熊字熊町665
	(有) マ ル シ ン 建 設	渡 辺 信 行	大熊町大字夫沢字長者原572
	吉 田 建 設 (株)	吉 田 定 仁	大熊町大字下野上字金谷平278
	(有) 杉 内 建 設 総 合 コ ン サ ル タ ン ト	杉 内 正	大熊町大字下野上字清水574
(有) アイカワ・オートサービス	愛 川 一	大熊町大字小入野字西大和久471	
富 岡	(有) 西 尾 鉄 筋 鋼 業	西 尾 道	富岡町大字小浜484-4

鹿島御子神社

「要石」 — 鹿島支部 —

第三号の担当は鹿島支部となりました。

鹿島町は相馬地方のほぼ中央に位置し、西方は飯館村、北は相馬市、南は原町市に隣接しており、真野川が町の中央部を東流するほか、海岸は単調な南北線で比較的遠浅で、右田浜、海老浜等は日本百景に匹敵する自然の松林が真野川河口より海岸に沿って10kmにおよび、広い白砂、俗化されない海



鹿島御子神社の樫

延喜式内社鹿島御子神社境内の樫2本、町天然記念物指定、幹の太さ目通りで9mと7.3m、高さ35m、樹齢約1,000年。

水浴場、つり場、キャンプ場等、家族連れに最適な行楽地であります。また史跡、文化財の宝庫ともいえる万葉の里地でもあります。

そこでこの機会に、鹿島御子神社の要石(延喜式内社)について紹介申し上げます。

ああ、あの大ケヤキがある神社、しかし「要石」といっても首をかしげるほどで、あまり知られていない。実は、この要石は御子神社の御神徳の一つで、地の底まで突き立てており、ぐらぐら揺れることなく大地震などはないと伝えられております。

古い話では、地下の大ナマズの

首根っこをこの要石が抑えているので、地震は少ないのだともいう。この要石は、本殿に向かう参道の右側の石の柵の中にあって、ほぼ丸い形で頭の部分しか地表に出ている。要石は、御子神社がこの地に遷宮された時に埋められたものと見られ、約千二百年近くたっていることになる。

むかし八人の氏が、どのくらい埋まっているものかと三日三晩掘り続けたが、とうとうその底まで掘ることができずにやめてしまったという語り伝えもあります。

このように、地中深く突き立っているから地盤が強固ということ、土木、建築業者や漁業関係者の信仰があったといわれています。

尚、この要石は茨城県の鹿島神宮にもあります。神社の神歌の一部に『ゆるぐともエー ゆるぐとも よもやぬけじの要石 要石 鹿島の神のあらんかぎりヤーハー』。要石は、樹齢一千年の大ケヤキとともに、地下と天空とに向かって確固たる姿を我々に示しているように感じます。

一度この御子神社の要石を拝見していただきたく申し上げ、参考になれば幸いです。

余 録

春になると諸官庁・団体では人事の話に花が咲く。

当会も、五月の総会には役員改選を迎える。ところが、県連では三月中旬に県の理事・委員予定者の推薦がほしいという。

当会の十支部の総会も、親会の後に開催されているのが大半だから、役員は事前にどこかで内定され、それぞれの総会での決定は追認の形となる。

県連が先か支部活動が先か、摩可不思議な組織だから、選ばれた役員の中には、何の職で責任は何なのか知らねえものもあるぞ——とは、十七日の総務・各委員長合同会議の一コマです。

編集後記

◎今回は鹿島支部さんが表紙担当で、文化の香り高い広報紙となりました。四号は飯館支部、五号が原町支部の順。

◎税を知る週間の事業や支部活動の内容、原稿も写真も豊富でしたから予定日に発行!! まずは今年も事務局に感謝!!